

## コンベンション報告

## 2025 年度 コンベンション報告 3

# ウズベキスタンにおける日本コンテンツ市場の現状と 映像流通構造の考察

渡辺 哲也

ウズベキスタンは、アジア諸国のなかでも珍しく日本のコンテンツが十分に浸透していない「不毛の地」である。

多くの国では正規・海賊版を問わず日本アニメやマンガの露出が街中にあふれているが、ウズベキスタンでは主要ショッピングモールでさえも日本アニメ関連の商品展開は、ロシアや第三国から流入したと思われる雑多なグッズや書籍がわずかに置かれる程度である。これは同国の映像流通構造が、旧ソ連圏特有のロシア語圏インターネット文化と、近年急伸する国内デジタル経済の狭間で揺れる特殊な状況にあるためではないかと推察される。

映像視聴において特徴的なのは、海賊版ストリーミング文化の強さである。9anime や Aniwave のクローン、RuTracker といった国際的違法サイトは、ロシア語字幕の豊富さ、更新速度の速さ、無料アクセスの容易さから若年層を中心に強い支持を集めている。特に 10～20 代のアニメ視聴者や欧米ドラマファンは、VPN と Telegram を併用し、正規サービスでは提供の遅い最新話を違法に視聴する傾向が顕著である。ウズベキスタンでは著作権保護制度そのものは整備途上にあるものの、実効性のあるブロッキングや摘発体制が不十分で、海賊版が市場の一定割合を占め続けている。

他方、近年では正規配信事業が通信キャリアを中心に急速に整ってきている。正規の OTT サービスは、映画・ドラマ・アニメ等をモバイル通信と統合したバンドル型モデルを採用し、通信インフラを基盤とした市場拡大を進めている。「Beeline TV」の通信量ゼロサービスや「Megogo」の多言語カタログ、さらに決済アプリ

Click が運営する「Click TV」のローカル志向（ウズベク語作品および家族向けコンテンツの強化）は、市場の家庭視聴セグメントを安定的に拡張している。「Aqlvoy」をはじめとする児童向け放送の受容は、正規市場の文化的基盤形成に寄与している。

「Netflix」は料金構造、通信コスト、英語・ロシア語中心のラインナップといった要因から利用者層は都市部中間層に限られ、アニメ視聴の主要選択肢ではない。一方「Crunchyroll」は正式サービスが未展開であり、VPN 経由の利用に依存するため認知度は極めて低い。このため、最新アニメへのアクセス需要が正規プラットフォームでは不十分であり、若年層が海賊版へ流入する構造が固定化している。

ウズベキスタンの映像市場は「最新性を重視する若年層が非正規ルートへ、家族・一般層が正規 OTT へ吸収される」という二層のメディア構造を呈している。この状況下で日本コンテンツを展開するには、制度的条件を整備し、海賊版との代替関係を縮小する必要がある。日本のコンテンツは、正規流通の確立を通じてウズベキスタンのみならず中央アジア・ロシア語圏全体に向けて大きなポテンシャルがあると考えられる。

## 渡辺 哲也

新卒で電通入社。メディア・コンテンツ領域において、プロデュース全般を担当。映画、ドラマから、バラエティ番組、経済番組、アニメなど、民放の全系列において幅広く企画・プロデュース。特にアニメなどの権利ビジネスや、事業会社への投資事業、海外でのビジネス展開に精通。グローバル部門においては、海外事業でのビ

## コンベンション報告

ビジネスや M&A などを担当。中国の上海メディアグループとの合弁企業設立に参画。現在は円谷フィールズホールディングスにてグループ全体のコンテンツビジネスを担当。

国内外での講演多数。

MBA 修了(早稲田大学ビジネススクール)。博士(メディアデザイン学) 慶應義塾大学。

円谷フィールズホールディングス株式会社 上席執行役員。

